

社会福祉法人 楽山会

椎の実子供の家

平成 24 年度 事業報告

椎の実子供の家は創立 40 年を迎えた。また平成 24 年 4 月に第二椎の実子供の家が開園し、本園として恥ずかしくない保育が行えるよう努力した一年間だった。常勤職員 23 人中 10 人が新規採用職員であったが、創設者の理念「幼児の躰でその一生が決まる」を基本に、保育の価値観を揃えていけるよう努めた。

24 年度の重点目標は以下の通りであった

＝24年度重点目標＝

- I) 組織改革の実施
- II) 職員の資質の向上
- III) 保護者との信頼関係を築く
- IV) 遊戯室・医務室・遊戯室屋上屋根の改修工事

I) 組織改革の実施

園長を統括者とし、副園長・乳児主任・幼児主任・保健主任(看護師)を置いて、園全体を把握するための組織改革を行った。新しい職員が多い中、椎の実子供を家の保育の質を下げないよう努力した。

II) 職員の資質の向上

FAP制度を活用し、評価者の指導のもと正しい自己評価が行えるようアドバイスを行った。FAPの評価シートを使うことで、園の保育や業務に対する価値観がそろえられるよう努力した。主任が軸となり、保育業務、給食業務と衛生管理などに対する自己評価ができるよう一年間努力してきた。常勤職員の半数近くが新規採用であったため、指導をする側もされる側も戸惑いが多い一年であった。しかし、この一年間で信頼関係を築くことができたので、25年度は更なる段階へ進めるであろう。

III) 保護者との信頼関係を築く

保護者に不安感を与えないよう、職員間の報告・連絡・相談を密に行ってきた。第三者評価の利用者調査では、自由記述では「伝達が悪い」「挨拶が少ない」などの評価も幾つか見られた。しかし全体としては「大変満足」と「満足」を合わせて 93、3%の高評価であった。これを励みに保護者との関係がさらによくなるよう努めていきたい。

IV) 遊戯室・医務室・遊戯室屋上屋根の改修工事

遊戯室南側のサッシの交換、医務室の床暖房設置を行い、子ども達がより安全で快適に生活出来る様になった。遊戯室屋上屋根改修工事は資料作成を依頼し、建築事務所と打ち合わせを重ねた。工事内容と予算を考慮し、工事開始は平成 25 年度になる予定。